

消防庁における熱中症対策

1. 熱中症による救急搬送人員の調査と公表

① 調査の概要

全国の消防本部を調査対象とし、5月1日を含む週の月曜日
から9月30日を含む日曜日までの救急搬送人員調査を実施。

② 調査結果の公表

調査結果は週報を消防庁ホームページに公開するとともに、
確定値を月報として報道発表。

③ データ提供

データは消防庁 HP において、Excel 形式で提供。

H31 年度の救急搬送人員の週報

4/29～5/5

342 人

H30 年度の救急搬送人員

5～9月の合計

95,137 人

2. 特設ホームページ「熱中症情報」等による予防のための普及啓発

① 熱中症による救急搬送人員（週報・月報）の内容を情報発信（再掲）

② 予防啓発コンテンツ

（1）予防啓発ポスター

熱中症による緊急時には、ためらわずに救急車利用を呼び
かけるポスターを作成・配布

（2）予防啓発ビデオ

熱中症予防のポイント等を説明した動画を作成（5分、15秒）

（3）予防啓発イラスト

「消太」を活用して熱中症予防を呼びかけるイラストを
作成（30種類）

（4）予防広報メッセージ

移動車両等での広報に用いるメッセージを作成（20例）

日本語を含めて4言語作成（日、英、中、韓）

（5）熱中症対策リーフレット

熱中症の予防法や対処法のポイントを記載

（6）熱中症予防啓発取組事例集

自治体における取組事例を紹介

（7）ツイッターによる注意喚起（フォロワー数：約95万）



啓発ポスター



啓発ビデオ



啓発イラスト



消防庁ツイッター
(スマートフォン画面)

3. 訪日外国人に対する普及・啓発

① 訪日外国人のための救急車利用ガイド

急な病気やけがをしたときに、必要な情報を掲載（7言語）

（英、中繁・簡、韓、伊、仏、タイ）

② 予防広報メッセージの作成（3言語）（再掲）



救急車利用ガイド

熱中症を予防して元気な夏を！



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう！



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行く必要のある状態や、症状についても紹介しています。当てはまる場合は、急いで119番しましょう。

※消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」や「救急利用リーフレット」も合わせてご覧ください。（下記のQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで、簡単に接続できます）



Q助サイト



救急車利用リーフレット



<https://www.fdma.go.jp/>



熱中症とは？

温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法

重症度	症状	対処	医療機関への受診
↓	・めまい ・立ちくらみ ・こむら返り ・手足のしびれ	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・冷やした水分、塩分補給	・症状が改善すれば受診の必要なし
	・頭痛 ・吐き気・吐いた ・体がだるい ・集中力や判断力の低下	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ体を冷やす ・十分な水分と塩分の補給	・口から飲めない場合や、症状の改善が見られない場合は、受診が必要
	・意識障害（受答えや会話がおかしい） ・けいれん ・運動障害（普段通りに歩けないなど） ・体が熱い	・涼しい場所へ移動 ・安静 ・衣類をゆるめ保冷剤などで冷やす	・急いで救急車を要請

熱中症予防のポイント

- ☺ 部屋の温度をこまめにチェック！
（普段過ごす部屋には温度計を置くことをおすすめします）
- ☺ 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう！
- ☺ のどが渇かなくてもこまめに水分補給！
- ☺ 外出の際は体を締めつけない涼しい服装で、日よけ対策も！
- ☺ 無理をせず、適度に休憩を！
- ☺ 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを！



子供の特徴

汗腺などが未熟
地面の照り返しにより、高い温度にさらされやすい
体温調節機能が未熟なため、熱中症にかかりやすい

保護者の方へ

- お子さんの顔色や汗のかき方を十分に観察しましょう！
- 喉の渇きにに応じて水分補給や休憩をとらせましょう！
- 日頃から外遊びをさせて、暑さに慣れさせましょう！
- 外出時は熱のこもりやすい服を避けて、帽子をかぶりましょう！

高齢者の特徴

のどの渇きを感じにくい
暑さを感じにくい
汗をかきにくい
体温を下げるための体の反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険がある

熱中症にならないために

- 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機等を活用！
- のどが渇かなくても水分補給をしましょう！
- 1日1回汗をかく運動をしましょう！
- 世話をする人は、普段と様子が変わると思ったら、ためらわずに医療機関を受診させましょう！

熱中症の応急手当

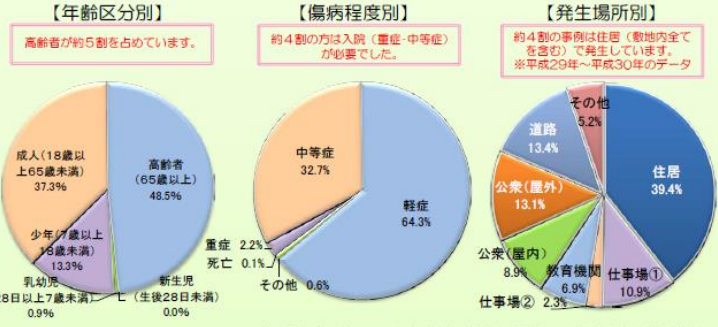
- 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす



持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう

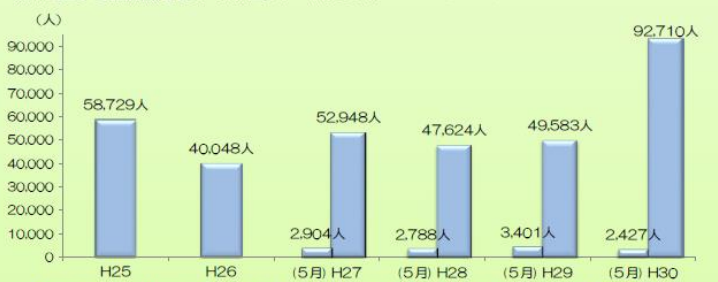
年代別では高齢者が約5割を占めております。熱中症による救急搬送者のうち、約4割の方は入院が必要でした。また、約4割の人の事例が住居（敷地内全ての場所を含む）で発生しています。
※仕事場①：道路工事現場、工場、作業所等 仕事場②：田畑・森林、海・川等（農・畜・水産作業を行っている場合のみ）
公衆（屋内）：不特定者が出入りする場所の屋内部分 公衆（屋外）：不特定者が出入りする場所の屋外部分

熱中症による救急搬送者の内訳（平成25年～平成30年合計）搬送人員計 341,642人 ※6～9月の調査集計



熱中症により、毎年約4万人以上の方が救急搬送されています。平成30年は約9万5,000人の方が搬送され、平成20年の調査以来過去最多を記録しました。
熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です！！

熱中症による救急搬送者数（平成25年～平成30年）搬送人員計 341,642人 ※6～9月の調査集計



消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報をごとに公表しています。
URL: https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/field_list9_2.html

参考：環境省「熱中症環境保健マニュアル」
http://www.wbgt.env.go.jp/heatstroke_manual.php

消防庁 FDMA <https://www.fdma.go.jp/>